

## 母子保健における民間活動に関する研究 全国民間の電話相談室および患者・親の会のディレクトリー情報

泉美智子<sup>1</sup> 野辺明子<sup>2</sup> 江井俊秀<sup>3</sup> 佐藤禮子<sup>4</sup> 相場静子<sup>5</sup>  
長坂典子<sup>6</sup> 中村安秀<sup>7</sup> 内田 章<sup>8</sup> 中村 敬<sup>8</sup>

【要約】本研究班は、初年度より民間による母子保健サービスの実態を把握することからスタートし、最終年度をもって、全国から収録した民間の電話相談室および患者・親の会の各機関・団体別のディレクトリー集を作成した。これらは、公的、民間機関を問わず、母子保健サービスを行うにあたって、相互に広く利用することができるものであり、本研究班の研究成果として紹介したい。

見出語：民間活動 電話相談 患者・親の会 ディレクトリー

### 【研究目的】

少子化と高齢化が進む社会の中で、子育てを支援するための多くの対策が立案され、多くの地域で始動しはじめている。この中で、行政による公的サービスのみでは、十分な母子保健サービスを提供することはできず、民間機関やボランティアにより行われている民間のサービスと連携し、その豊富なマンパワーを活用することが重要である。そこで、

今回は、すでに広く利用されている全国の民間の電話相談室と患者・親の会について、ディレクトリー集を作成し、相互に利用することにより、その資源を有効に活用しようとするものである。

### 【研究の対象および方法】

1) 全国の把握できた範囲の民間電話相談室 195 室にアンケート調査を実施し、うち 116

---

<sup>1</sup> 泉事務所

<sup>2</sup> 先天性四肢障害児父母の会

<sup>3</sup> 財団法人母子衛生研究会

<sup>4</sup> 恩賜財団母子愛育会

<sup>5</sup> 主婦の友「わたしの赤ちゃん」編集室

<sup>6</sup> 東京都中部精神保健センター

<sup>7</sup> 東京大学医学部小児科

<sup>8</sup> 東京都母子保健サービスセンター

室から回答が寄せられた。実態については、すでに昨年報告したので割愛するが、本年度は、これらの調査をもとに、各電話相談室ごとに、以下の17項目を掲載した資料集を冊子として出版する。なお、現在電話相談室ごとに、掲載原稿を点検してもらい、掲載の可否に関する意志を確認し編集集中である。

相談室の名称、相談電話番号、相談時間、相談の内容、所在地、利用者の範囲、電話台数、開設時期、相談件数、相談員の数、保健医療関係者の有無、アドバイザーの有無、相談員の研修の有無、相談員の謝金、運営資金、開設動機、電話相談のポリシー

2) 患者・親の会調査は、把握できた団体86団体のうち、36団体から回答が寄せられた。実態については、すでに昨年報告したので、割愛するが、本年度は、回答のあった36団体と、一部再調査により回答の得られた団体を加えて、次の項目を記載したディレクトリー集を作成中である。

団体の名称、住所・連絡先、電話番号、ファックス、代表者、事務局の活動時間、対象、設立年月日、会員数、会の構成員、電話相談窓口の有無、定期刊行物、他の出版物・ビデオ、活動目的、活動内容、入会方法、資料請求先、入会希望者へのメッセージ

#### 【結果】

電話相談室および患者・親の会ディレクトリーのレイアウトを図-1および図-2に表した。

#### 【考察】

民間における母子保健活動は、ニーズによく対応し、順応性が高く、活発で有意義な活動が多い。しかしながら、その個々の内容が必ずしも知られておらず、また、類似した活動同士の相互連携がとれていないという問題もある。今回作成した、電話相談室と患者・親の会のディレクトリー集は、利用者にとっても、優れたガイドラインになり、また、公的機関、民間機関を問わず、広く、母子保健サービスを提供する現場で活用が可能である。

しかし、これらの活動は、ともすれば資金やマンパワーなどの問題で、運営に支障をきたし、短期間で消滅したり、また、新たに発足したり、新陳代謝が激しいのが特徴である。そこで、これらのディレクトリー情報は、少なくとも2～3年ごとに再調査を行い、更新していく必要がある。

最後に、このような、ディレクトリー情報を整備し、行政と民間が相互に活用できるように配慮し、よりよい母子保健サービスを提供するための基礎資料を整備・管理することは、行政のもつ大きな役割と考えられる。

ピーアンド電話相談室

電談電話 相談時間	03-3292-5678 月・木 10～14時 火
相談範囲	18時30分～21時30分 妊娠・出産に関する相談 育児相談 生活相談 人生相談 病気などの医学的な相談

- ①所在地 東京都千代田区神田駿河台1-5-6-107
- ②利用できる人 誰でもよい
- ③電話台数 2台
- ④開設時期（継続年数） 1984年ころ（継続10年）
- ⑤相談件数 1日で60～80名くらい 1か月で1000名くらい
- ⑥相談員の人数 8名
- ⑦保健医療関係者の有無 あり なし
- ⑧アドバイザーの有無 あり なし（医師）
- ⑨相談員の研修の有無 あり なし（本採用前は、①本を読んでもらう②実際に聞いてもらい、質問してもらう。採用後は、①電話相談のミニミティング ②顧問の先生の講義）
- ⑩相談員の謝金の有無 有給 交通費のみ ボランティア
- ⑪相談電話の運営資金 企業がバックアップしている
- ⑫電話相談開設の動機 小学館のピーアンド誌創刊と同時に依頼される。雑誌としてはユーザーサービスとして始められた
- ⑬電話相談のポリシー ①相手の悩みをまず受け入れること ②情報を整えて的確に水先案内ができること

図-1：電話相談ディレクトリーのサンプル

団体名 ネットワークOJ ( 略称 )

連絡先	〒174 東京都板橋区富士町 25-2 河村方
TEL	03-3961~1985
FAX	
代表者	河村 直
事務局の活動時間	随時 (本人は朝7時~夜6時20分頃是不在です。用件を家人に託して帰る時は毎日連絡致します)

どのような「障害」や「病気」をもつ子どもたちが対象ですか？

骨形成不全(以下OJとします)症のお子さんと家族の方  
あーあ  
 OJ症の主な症状は、骨が弱く骨折しやすいことです。骨折時は激痛を伴い、しばらくの安静が必要です。平常時でも身体的障害や他の骨が折れるか？、手に痛くはるのでは？と心の負担を抱えています。また両親は、これらの負担の他に、ご自身の将来は？、何と立場上の思いも加わり事態は深刻です

設立年月日	平成5年8月16日
会員数	220名
会の構成員	当事者(OJ有(親))200名、養育会員(医師看護婦他)20名
電話相談窓口の有無	有 TEL 03-3961~1985 <small>(専用)の電話は有りません(連絡する時は文交します)</small>
定期刊行物	会報「あーあ」(送料が三種郵便物認可)
その他の出版物、ビデオ	現在まで「おし

活動の目的

OJ症は症例数が少ないこと、同じOJ症でも障害に幅が相ること、治療法が確立していないこと等の理由により、本人を中心とした会が有りませんでした。またOJ有の多くは障害が有りはせぬ、せれば水の形で社会参加をし、より多くの人が精神的自立を果していき、私たちがこの経験を後に続くOJ児とご両親に情報として伝えた。ご存知のとおりOJ有の努力が添がされ、OJ児の医療、教育、日常生活、社会参加などの選択肢を多くし、より充実した人生を送ることが出来るようになっていります。

具体的な活動内容

1. 年々回の会報の発行
  2. 年/回の総会の開催(東京)
  3. 年々回程度の各地での交流会
- また、少づつで、可医療関係者などの援助会員も増えています。近々、将来、医療界の相談会も開催したいと考えていります。

入会方法と資料請求先

下記へご連絡いただければ、会則、入会申込書、最近発行の会報などを郵送いたします。おしを参考に入会申込書を返送して下さい。  
 〒174 東京都板橋区富士町 25-2 河村方 電話 03-3961-1985  
 入会希望者への一言メッセージ

確き、悔みは、おしを生きるの人生、明るく、楽しく生きるのも人生。“空”と認め合い、助け合い、共に生きる”という精神のもと、貴方もOJ症の情報交換に参加してませんか？  
 ご連絡をお待ちしています。

図-2: 調査・親の会サンプルデータとレイアウト



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】本研究班は、初年度より民間による母子保健サービスの実態を把握することからスタートし、最終年度をもって、全国から収録した民間の電話相談室および患者・親の会の各機関・団体別のディレクトリー集を作成した。これらは、公的、民間機関を問わず、母子保健サービスを行うにあたって、相互に広く利用することができるものであり、本研究班の研究成果として紹介したい。